



新年のご挨拶

労働者健康福祉機構 中国労災病院
病院長 榎野 新

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、パリ同時多発テロやネパール大地震、ヨーロッパへの難民急増で多数の犠牲者が出ましたし、日本でも関東・東北豪雨で8人が死亡しました。今世紀はテロと難民、それに自然災害の多発する世紀になるのではないかと不安になる1年でした。ただ、日本では明るい話題もありました。梶田先生、大村先生がノーベル賞を受賞されましたし、ラグビーW杯で日本代表が3勝して、対南ア戦では「W杯の最高の瞬間賞」も受賞しました。

医療界に目を向けると、新しい医療事故調査制度が始まりましたし、平成37年に向けて地域医療構想の検討も始まっています。これは、病院の病床機能再配分を行い、地域医療・在宅医療と連携した切れ目のない医療・介護を構築していこうとするものです。これからは急性期病院と地域の医療機関が更に緊密に連携していく事が求められます。私たちは、今まで本院が進めてきた方針どおり、地域医療連携を更に進めると共に、地域医療連携に不可欠な救急医療にこれまでどおり力を入れて参ります。

今年は診療報酬改定の年であり、それがマイナス改定になる事が決まっています。今後暫くは医療界に逆風が吹き厳しい季節になりそうですが、この様なときこそ地域で力を合わせてこれを乗り切っていきたいと思えます。

今年の干支は「丙申（ひのえさる）」です。「丙」は、『地上から芽吹き、葉が広がっていく様』を示し、「申」という文字は『伸びる、果実が熟する』ことを意味するのだそうです。この干支が示すように、この地域の医療が皆で共に発展していくことができるようこれからも力を入れていきたいと考えています。

皆様にとって、今年が更なる飛躍の年になりますよう祈っております。

本年もどうぞよろしくお願ひ申しあげます。

平成28年1月